～豊かな心を育む水と大地を次の世代へ～

みちのく下水道ビジョン・・・・・

『輝く水と輝く命』トークショー

平成 18 年 11 月 30 日、秋田市民交流プラザ　アルヴェにて日々の生活において身近にあっても、普段は意識することのない下水道処理設備とシステム活用法、水環境の未来への取り組みについて「~豊かな心を育む水と大地を次の世代へ~『輝く水と輝く命』トークショー」と題したイベントが開催されました。

〇主催者あいさつ

国土交通省東北地方整備局 建政部長

建政部長　森 義一

はじめに主催者を代表して国土交通省東北地方整備局　建政部　森義一部長から「20 世紀は効率性・生産性を追及する開発の世紀でしたが、21 世紀は真に人間らしい豊かな生活を追及する世紀であり、美しい自然環境を次世代へ引き継いでいくことが我々の使命であると思っています。そのためには下水道設備の整備と普及率の拡大、事業が有する多くの意義と役割についての認知を高めることが課題であり、この催しを契機に理解を深めていただければ幸いです」と挨拶がありました。

〇講演「海中２万７０００時間の旅」

水中写真家　中村征夫氏

中村 征夫氏

中村 征夫氏

開式後、水中写真家　中村征夫さんによる『海中 2 万 7000 時間の旅』と題した特別講演がありました。導入部分では秋田県出身である中村さんの故郷の思い出と平成 18 年の豪雪について「僕が子供の頃にも大雪が降ったものですが、昨年の豪雪では皆様大変ご苦労をなさったと思います。それでも環境が循環して、生態系が活き活きとするためには冬には雪が降ったほうがいいと思います」とお話がありました。また水中写真家としての経験と視点から「世界の 7 割は海に覆われていますが、私たちの生活に密着している沿岸域こそが一番重要な部分ではないかと思います」という意見の後に、加速する温暖化環境の中で私たちの暮らしに恵みをもたらす沿岸域と、そこに生息する生物が果たす役割、それらの保護の必要性について穏やかながらも熱のこもった調子でお話がありました。また一人一人の環境への取り組みについて「海って言うのは水の流れで一番終点に当たりますから、良い物も悪い物も全部沿岸に流れ込みます。我々の生活環境が一番海の生き物、川の生き物に対して影響を与えるんじゃないかと思います。コップ一杯の油が流れた時に、魚が住める環境にするまで風呂おけ何百杯ものきれいな水が必要になると言われています。だから下水に油を流すことを止めるとか、私たちが日常生活を送る上でちょっとした気遣いをするだけで水環境が全然違ってくることを理解して、自然に対する優しさをもって取り組んでいただければ、人も水も生物もより快適な環境で共存することができると思います」とお話がありました。

〇フリーディスカッション

「下水道ってどんなもの？」

秋田大学工学資源学部教授　菅原　拓男
マルチタレント　あべ　十全
フリーアナウンサー　多可　享子

菅原 拓男氏

あべ 十全氏

多可 享子氏

その後『下水道ってどんなもの？』と題して、秋田大学工学資源学部環境物質工学科の菅原拓男教授、マルチタレントのあべ十全さん、フリーアナウンサーの多可享子さんがコメンテーターとなり、下水道事業についてのフリーディスカッションが開催されました。まずは下水処理について、あべさんが「まんま（お米）研ぐじゃないですか？　あの研ぎ汁が結構曲者なんですよ」と口火を切ると、会場からも多可さんからも意外といった反応がもれました。「研ぎ汁は植物や作物に肥料としてあげる分には問題ないんですけどね、処理するとなると手間にはなりますね」と菅原教授。続けて「せっかく下水道があっても、つながれないと使われないことが問題です」と秋田県の下水道普及率の現状についてお話があると、多可さんから「先生、『つながっている』と仰いましたけど、そもそも今日私が何で選ばれたかって『下水道ってどんなもの？』って状況そのもので。下水道について教えていただけますか？」と質問が。菅原教授からは、終末下水処理施設でのバクテリアを使った活性汚泥による浄水システムについての説明の他に、「秋田の場合、下水道敷設は 7 割にはなっていますが、実際につながっているのはまだ 6 割程度で、あとの 1 割の方には、ご家庭の近くまでラインが来ていると思うのでつないでいただく価値があると思います」と地域住民の皆さんが、敷設の進む下水道に積極的につないで活用することへの期待についてお話がありました。

秋田市八橋にある下水道終末処理施設では、実際にバクテリアが浄化している様子を顕微鏡で見ることができるという話題では、「知識として教えるだけでなく、学校単位でそういう施設に連れて行って、実際に見て学習させてあげることが重要なの。点と点だけじゃなく、線にして物を教えてやんねえと。大事なことなんだから」と三児の父でもあるあべさんから教育についての発言があり、この意見には菅原教授も「実際に見ることで身近に感じますし、事業に対しての理解も深まると思います」と同意していました。

水を浄化して再利用するだけでなく、そこからエネルギーを取り出す活動や試みが紹介されたのをきっかけに総合的な環境保護についても話が広がり、多可さんからは「みんなが『自分だけ』っていうんじゃなくて『お隣さんが…』みたいにご近所さん同士で迷惑かけないようにって心遣いが、果てはつながって海、山、地球になるわけですからね」と今後の環境保護への取り組みについて感想がありました。また、菅原教授からは「それぞれライフスタイルがあって、なかなか譲れない部分っていうのがあると思いますが、皆さんが無理なくできて、しかも環境に優しい暮らし方があると思います」というお話が。これを受けて、あべさんからは「あんまり力まないで楽しくやるのが一番。『環境が！』ってなっちゃうと続かないから」との言葉があり、なごやかなムードながらも環境への取り組みに対しては真剣さが見られた場面でした。

コメンテーター三人が、環境も人間もネットワークの中で成り立っている、それぞれがつながっている存在であることを確認したところで、最後にあべさんから、「下水道につなげる人は早くつないで。自然環境が守れる、というかみんなと心がつながっていくから……私もつなぎます。息子と工事の相談をして」とユーモアの効いた一言が。

下水道をはじめとした環境について、終始笑いの絶えない楽しく、そしてちょっと真面目なディスカッションが行われ、会場にお越しの皆様も「環境が！」と力まずに、楽しく下水道事業についての理解を深められたようでした。